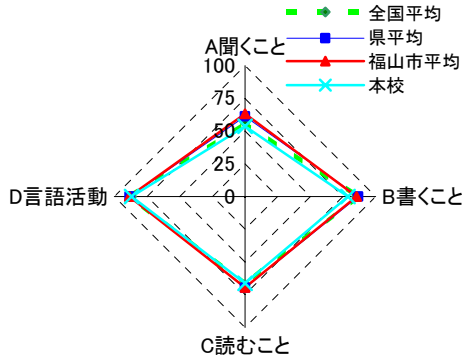


国語

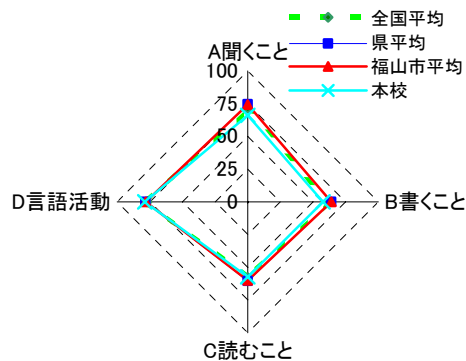
全国学力・学習状況調査通過率（A問題）

全国平均 81.7% 県平均 83.3%
 福山市平均 83.9% 学校平均 81.1%



全国学力・学習状況調査通過率（B問題）

全国平均 62.0% 県平均 65.0%
 福山市平均 65.0% 学校平均 61.0%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

- ①問題分析を行い、出題の意図を理解する。
 - ・知識を問う問題は、基礎的・基本的に身に付けておくべき内容であるが、書く領域と話す・聞く領域において、課題がある。
 - ・複数の文章や資料を関係付けて読んだり、目的や条件に応じて書いたりする力が求められている。
- ②指導方法の改善点を挙げる。
 - ・読み手に理解しやすい構成を意識し、自分の考えや意見を的確に伝える文章を書く場を多くもたせる。
 - ・場面に応じて最後まで集中して聞いたり、聞いた内容をメモに取ったりして話の構成や展開をとらえさせる。

重点課題（◇：全国学力・学習状況調査）

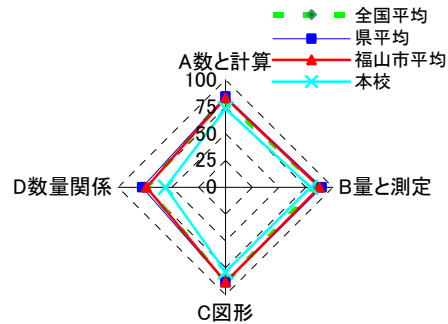
- ◇インタビューメモの工夫を選択したり、スピーチでの聞き手に分かり易い話し方を選択する設問において、話し手の意図を考えながら聞いたり、必要な情報を選択して聞いたりする力が不足している。また、話の組み立てを工夫し、整理しながら話す力も不足している。
- ◇「古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く」「古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く」設問において、文中から2つの理由を読み取って要約したり、目的や条件に応じて文を書きかえたりする力が不足している。

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

- ①これまで話を聞く構えの指導や内容の確認、メモをとりながら聞く指導を行ってきたが、さらに次の点を意識して取り組み児童の話す・聞く力を向上させていく。
 - ・メモをとる目的を明確にした上で、箇条書きにするなどメモのとり方について具体的に指導し、日常的な言語活動の充実を図っていく。また、話し手が何を言いたいのかを探りながら話を聞いたり、話を分析的・批判的に聞き自分の意見や考えを組み立てていったりする取り組みを行う。
 - ・小集団から段階的な話し合いの場を設定し、互いの意見の相違点や共通点を考えたり、全体の中でスピーチや司会をしたりする経験を積み重ねさせる。
- ②言語技術を導入し、事実を伝えたり、情報を理解したりする技術の習得や考えを伝える能力の開発を行ってきたが、今後は、学年系統表に基づいて、結論

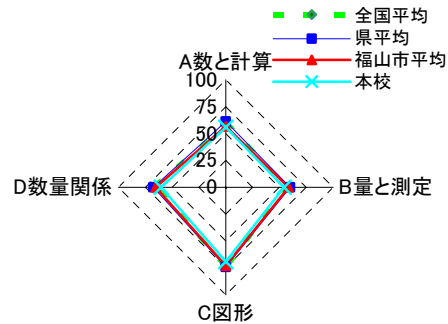
全国学力・学習状況調査通過率（A問題）

全国平均 82.1% 県平均 84.7%
 福山市平均 82.6% 学校平均 72.1%



全国学力・学習状況調査通過率（B問題）

全国平均 63.6% 県平均 65.0%
 福山市平均 62.9% 学校平均 59.3%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

- ①問題分析を行い、出題の意図を理解する。
 - ・知識を問う問題は、基本的な内容が多く、ほとんどの児童に定着が期待できる内容である。
 - ・グラフや表から読み取ったことをもとに考えを進める力が問われている。
 - ・言葉や式を使って解答する力が求められている。
- ②指導方法の改善点を挙げる。
 - ・プリントなどを活用して練習問題に多くふれさせる。
 - ・グラフや表から読み取った数値や傾向を比較したり、気づきを文で書いてりさせる。
 - ・自分の考えを言葉や図、式を使って説明させる。

重点課題（◇：全国学力・学習状況調査）

◇数と計算

- ・「A問題」の正答率は「小数の除法」（約50%）、「加法・乗法の混合算」（約50%）「分数と小数の大小比較」（約40%）が低く、方法が十分理解できていない。

◇数量関係

- ・「A問題7」の「周りの長さが一定である長方形の縦の長さを基に、横の長さを求める」「表から変化の規則性をとらえる」の誤答が多い。（約50%）「B問題4」の「条件を基に各曜日の代金を求めて比較する」における解答類型に当てはまらない回答が多い。（約55%）

◇量と測定

- ・「B問題5（3）」において、平行四辺形の面積を「底辺×斜辺」で求めている。（37.2%）

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

- ①小数の除法、四則計算における乗法・除法の優先、分数と小数の大小比較における取り扱い問題量が定着させるには少ないことがわかった。そこで該当単元ではプリントを活用して、練習問題を増やすと共につまづいている児童の個別指導を行い、計算能力を伸ばす。
- ②児童が自分で考える時間が少なく、教師が解説する時間が多し授業形態があった。また1時間の授業で類題を複数解く機会が少なかった。ワークブックやプリントを用いて自分で考えて問題を解く機会を増やし、題意を正しくとらえる力をつける。
- ③自分の考えを図や式、言葉で表す活動が十分ではない。このような活動をどの単元でも行うようにする。何をどう書けばよいかわからない児童も少なくない。考え方をどう書けばよいか示して書き写させる、自分で考え方を書いてみるという指導過程を経て、児童が見通しをもって問題に取り組む力を育てる。

2 意識調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査, 児童質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙, 児童質問紙)

(1) 生活・学習 (「基礎・基本」：学校質問紙P1～2, 児童質問紙P1～3)
 (「全国」：学校質問紙P10～13, P18, P20～21, 児童質問紙P1～15)

改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組みの内容
◎テレビやビデオ, DVDの時間が多く, 読書をする習慣が定着していない児童の割合が多い。 ◎見たことや考えたことを人に順序よく伝えようとする意識ができていない。 ◎家庭での学習時間少ない(9%)・30分より少ない。(21%) ◎自分で計画を立てて学習することができていない児童が3割いる。 ◇今住んでいる地域の歴史や自然について関心があまりない。	<ul style="list-style-type: none"> ・親子読書と呼びかけたり, 朝の読書の充実をはかる。また時間の有効的な使い方について考えさせ, 計画的に読書をする習慣を定着させる。 ・チャレンジタイム, 特別活動の中に「ことば」の学習を位置づけ順序よく伝える言語技術を身につけさせる。 ・家庭学習のしおりを作成し, 家庭学習ができていない児童の対応を学校で統一したり, 自主的な学習の仕方を具体的に示したりして, 習慣化するように指導する。 ・総合的な学習・社会科などにおいて, フィールドワークをしたり, ゲストティーチャーを招いたりして, 地域への関心を高める。

(2) 教科 (「基礎・基本」：学校質問紙P3～7, 児童質問紙P4～6)
 (「全国」：学校質問紙P14～17, 児童質問紙P17～29)

教科	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	◎「読む」領域において, 段落構成を正確にとらえ, 要旨や要約できる力を身につけさせる。 ◇読書習慣が身につけていない児童が4割弱いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・つけたい力の系統表に沿って, 学年の取り組みを進めていく。指示語や接続語に着目させ, 段落相互の関係を読みとり, 要約する。 ・事実や感想, 意見の関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながらか読みようにするため, 筆者の主張や論の展開, 文章表現の特徴や工夫などに着目した指導をしていく。 ・本の紹介をしたり, 感想の交流をしたりする場を設ける。読書貯金をしたり, 親子読書をしたりして意欲をもたせる。
算数	◎「数量関係」領域において, 規則性を見つける関数の考え方やその関係を式に表したり説明したりする表現力を身に付けさせる。 ◇算数の勉強が好きではない, 大切ではないという児童が全国平均を約10ポイント上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の四領域における系統図に沿って, 既習の学習を想起させ, その知識を基に児童が主体的に問題解決にあたっていくことを, 各学年で取り組みを進めていく。 ・授業展開に自分の考えを「書く」ということを通して, 児童の思考を深め整理されていく過程を大事にした指導を進める。 ・児童の学びを高めるために, 子どもが主体となって学ぶ授業を展開していく。

指導改善のための実施スケジュール

